

令和2年度
射水市公募提案型市民協働事業報告会

令和3年度
射水市公募提案型市民協働事業審査会



日 時：令和3年2月7日(日)

【報告会】午後2時00分～

【審査会】午後2時15分～

場 所：射水市役所 3階302～304会議室

射水市市民生活部

地域振興・文化課

次 第

1 令和2年度公募提案型市民協働事業報告会 開会

2 提案団体による事業報告

- ・一般社団法人 金山里山の会
「若い世代が活動して育てる田舎～射水南部丘陵（里山）魅力発信～」

3 令和3年度公募提案型市民協働事業審査会 開会

4 審査委員の紹介及び進行説明等

5 提案団体によるプレゼンテーション

【テーマ型】ウィズコロナ・アフターコロナ期の地域活性化事業

①富山福祉短期大学

「あきらめないで挑戦する自分になる！『自分を応援できる自分づくり』
促進事業」

②富山県立大学

「コロナ禍における外国人住民の生活実態の把握と課題解決方法の協創
-永住者とその家族の活躍の場創出を見据えて」

【フリー型】多様な主体による協働事業

③射水まちづくり大学同窓会 ／ 射水市民国際交流協会

「もっと知って、もっと繋がる多文化交流事業～外国人と地域住民の交流
型イベント『LINK PARK』～」

④小杉まちづくり協議会 ／ 富山県立小杉高等学校

「多世代が伝える小杉の偉人」

6 閉会

1 射水市公募提案型市民協働事業報告会・審査会スケジュール

13:30～	受付
14:00～	令和2年度公募提案型市民協働事業報告会 ・ 一般社団法人 金山里山の会 「若い世代が活動して育てる田舎 ～射水南部丘陵（里山）魅力発信～」
14:15～	令和3年度公募提案型市民協働事業審査会 開会 審査委員の紹介及び進行説明等
14:30～ 15:45	提案団体によるプレゼンテーション 【テーマ型】 ウィズコロナ・アフターコロナ期の地域活性化事業 1 富山福祉短期大学 「あきらめないで挑戦する自分になる！『自分を応援できる自分づくり』促進事業」 2 富山県立大学 「コロナ禍における外国人住民の生活実態の把握と課題解決方法の協創－永住者とその家族の活躍の場創出を見据えて」 【フリー型】 多様な主体による協働事業 3 射水まちづくり大学同窓会 ／ 射水市民国際交流協会 「もっと知って、もっと繋がる多文化交流事業～外国人と地域住民の交流型イベント『LINK PARK』～」 4 小杉まちづくり協議会 ／ 富山県立小杉高等学校 「多世代が伝える小杉の偉人」
15:45	閉会

2 発表方法

【令和2年度公募提案型市民協働事業報告会】

- ・発表時間は、1団体7分間とします。
- ・発表開始後、6分経過時にベルを1回、7分経過時に2回鳴らします。

【令和3年度公募提案型市民協働事業審査会】

- ・発表時間は、1団体7分間とします。
- ・発表開始後、6分経過時にベルを1回、7分経過時に2回鳴らします。
- ・発表後の審査委員からの質疑応答は8分間です。
- ・質疑応答開始後、7分経過時にベルを1回、8分経過時に2回鳴らします。

3 審査基準

項目	審査ポイント
課題解決	①地域課題や市民ニーズを捉えたものであるか。 ②公益性・社会貢献的な事業であるか。 ③募集のテーマに沿った事業内容であるか。
協働の効果 事業の効果	①協働の役割分担が明確かつ妥当であるか。 ②協働で実施することにより、相乗効果が期待できるか。 ③市民の満足度が高まり、具体的な効果や成果が期待できるか。
事業の実現性	①計画どおりに事業実施が可能であるか。 ②市が実施するより、サービスの向上が図られるか。 ③予算の見積もり等が適正であるか。
提案団体の実施能力	事業を実施する上での専門的な知識や経験を有し、提案事業の実施が可能であるか。
先駆性・独自性	①新しい視点から取り組む事業であるか。 ②工夫やアイデアが盛り込まれているか。
自立性・持続性	①自己努力による資金確保に努めているか。 ②自立的に発展していくことが期待できるか。 ③継続性を期待できるか。

4 採択事業の決定

提案事業の採否は、後日審査結果を基に市長が決定します。

射水市公募提案型市民協働事業 事業計画書

団体名 富山福祉短期大学

事業の名称	あきらめないで挑戦する自分になる！ 「自分を応援できる自分づくり」促進事業 (解決すべき地域課題と市民ニーズ)	
事業の目的	新型コロナウイルスの感染拡大により、私たちの生活には見えないウイルスに対する恐怖やこの先の生活に対する不安が広がっている。また、同時に、これまで当たり前に送っていた生活に多くの制約が生じていることにストレスを感じ、大人も子供も心の安定が難しくなっている現状がある。 私たちの思考パターンは、自己対話から形作られている。この自己対話の質が自己肯定感の高さに大きく影響しているが、日常生活において自己対話はほぼ無意識下で行われているため、その内容・質について見直す機会をもたないままであることが多い。 そこで、本事業では、子供たちが日々の生活で自己対話を行っていることに気づき、その質を高めるための視点をもつことにより、コロナ禍においても、心の状態を安定させ、未来に希望をもち、あきらめずに挑戦する自分づくりを促進することを目的に実施する。また、対象学級の担任教員にも授業を参観いただくことにより、自己対話の質を高めていくための視点提供ができ、今後の子供たちとの関わりに活かしていただくことに繋がると考える。	
事業内容 (複数の事業がある場合は別紙添付でも可)	対象	(誰を) 市内小学校に通う子供たち（6年生）、対象学年を担当する教員
	手法	(いつ、何を、どのように等) ・市内の小学校で、自分を応援し、あきらめずに挑戦する自分をつくる自己対話に関する授業（コーチングプログラム）の提供を行う。プログラム提供は、本学幼児教育学科教員を含め、トラストコーチング北陸の認定コーチと連携し、2人体制で実施する。また、本学学生は、プログラム提供のための教材製作等のサポートを行う。 ○内容：絵本『鏡の中のぼく』を活用し、自己肯定感を高め、自分のことを応援し、あきらめずに挑戦する自分をつくるコミュニケーションについて学ぶ。 ○対象：小学生（6年生） ※三密を防ぐため、各クラス単位で実施予定 ○時間：1コマ（45分）
	目標	(具体的な指標、数値目標等) ・市内全小学校での6年生への授業提供（15校 28学級）を通し、コロナ禍でストレスを感じ、不安定になっている子供を減らすと共に、子どもたちの自己肯定感を高め、心の安定を保つための土台作りを行う。 ・授業前後の意識調査（アンケート）を行う。 ・授業提供を行う小学校の全教職員を対象に、「自己対話の質を高めるためのコーチングワンポイントアドバイス」を掲載した資料を作成・配布し、日々の実践に活かしていただけるようにする。

		・事業実施後のアンケートによって明らかになったコーチングプログラム提供の有効性などを市内外に発信し、心の状態を安定させ、未来に希望をもち、あきらめずに挑戦する自分づくりへの意識や関心を高める。
協働事業として取り組むことの必要性	(団体や行政の特性から説明してください。) ・市と協働で「自分を応援できる自分づくり」の促進に取り組むことにより、市内全小学校への授業提供が可能になるため、より多くの子供たちの自己肯定感を高めると共に、コロナ禍においても心の安定を保つための土台作りが可能になる。	
役割分担	(提案団体が果たす役割) ・小学校への授業の企画・実施 ・トラストコーチング北陸との連絡調整	
	(事業実施に伴う市の役割) ・小学校での授業についての連絡調整	
事業スケジュール (別紙添付でも可)	(準備期間、本実施期間、事業の評価等のスケジュール) ・4月～ 5月 対象の子供の実態に応じた授業プログラムの検討・作成 教職員向け配布資料の内容の検討・作成 ・6月～12月 各小学校での授業の実施 ・7月～ 2月 事前・事後アンケートの分析・まとめ	
事業効果	(事業に取り組むことで、どのような効果が期待できるか。) 【期待できる効果】 ・コロナ禍でストレスを感じ、不安定になっている子供を減らすと共に、子どもたちの自己肯定感が高まり、心の安定を保つための土台作りができる。 ・子供の心の安定を保つ土台作りにより、コロナ禍においてもマイナス面だけに目を向けて塞ぎ込んでしまうことなく、今置かれた状況の中で自分にできることを考え行動できる心身共に健康な子供の育成の一助となることが期待できる。 【成果指標・数値の目標】 ・事前・事後アンケートの分析において、不安や困難を感じる状況に置かれた際の自己対話の質にプラスの変化が見られる割合として8割以上を目指したい。	
事業展開	(協働事業終了後の事業展開) ・活動状況や参加児童の意識調査の結果を報告・発信する。 ・小学校・中学校でのコーチングプログラム提供を継続して実施する。 ・子育て支援センターや、保育園・幼稚園・小学校・中学校等で、保護者向けに自己肯定感を育むための講演会を提供する。 ・教員向けに、自己肯定感を育むための研修を提供する。	

射水市公募提案型市民協働事業 事業計画書

団体名 富山県立大学

事業の名称	コロナ禍における外国人住民の生活実態の把握と課題解決方法の協創-永住者とその家族の活躍の場創出を見据えて	
事業の目的	（解決すべき地域課題と市民ニーズ） 射水市は県内でも最も外国人住民総人口比が高い地域であり、ほかの市町村と比べ、フィリピン、パキスタン、中国等を母国とする定住者とその家族（本邦で出生し在留する者等）の割合が高いという特徴がある。こうした定住者の家族に関し、とりわけ義務教育を終了した後も在留している方のなかには、日本でも母国でも教育・就業の機会を得られず、日常生活に課題を抱えている方が含まれている可能性がある。また、今日のコロナ禍にあって、その状況がさらに深刻化している可能性が高い。しかしながら、定住者とその家族の日常生活とその課題については、コロナ以前から十分に把握できていないのが現状である。 一方で、射水市には、すでに外国人住民等の日常生活支援を行う複数の市民団体等が存在し、それら団体・個人は、それぞれに状況を把握し、課題解決に向けて対応をしている。しかしながら、これら団体間、そして行政とも情報共有の場はなく、これまでどのような活動がだれによって実施され、その結果どのような効果があったのか、明らかになっていない。これら団体間、そして行政が情報を共有し、協働あるいは役割分担することにより、射水市内に暮らす外国人の課題解決につながる可能性がある。またそれにより、長期的には、多くの若く有能な外国人が射水市民として定住し、市の課題解決に貢献する存在になっていくことが期待できる。 そこで、本事業では、<u>外国人住民の中でも、永住者とその家族に焦点を当て、コロナ禍における生活実態の把握と課題解決方法の協創を目的</u>に、以下の3点を目標として事業を展開する。 ①射水市内で在日外国人を支援している団体・個人の活動とその成果を整理、共有する場を構築すること ②外国人住民のうち、主に定住者とその家族の生活の実態とコロナ禍における生活上の課題を把握すること ③②の結果を踏まえて、①の関係者及び当事者とともに課題解決方法を創出すること このうち、②に関しては、定住者の家族に、同国籍の方々へのインタビュー等の調査の補助者（通訳）として参画してもらい、合わせて③の対象者にもなることで、全体として当事者主体の課題解決方法を構築することを目指す。	
事業内容 （複数の事業がある場合は別紙添付でも可）	対象	（誰を） 1. 射水市に居住する外国人（主に永住者とその家族） 2. 射水市内で活動する在日外国人を支援する団体・個人

		(いつ、何を、どのように等) <u>1. 市民団体合同協議会（インフォーマルな場・仮称）の設置・開催（令和3年6～2月）</u> ・市がすでに把握している団体（個人）を起点に、雪だるま式サンプリングで、市内の市民団体を把握しリスト化する。 ・リストにある団体の活動内容・成果共有を目的とした協議会を開催する ・協議会の結果を踏まえ、1, 2 団体をピックアップし、富山県立大学看護学部教員（申請団体、以降県大）が、市民団体の活動成果の見える化を支援する（結果を、市民シンポ、広報・SNS等で発信することで、関係者の多様化を促進する） ・協議会は計3回程度開催する。このうちの一回は課題解決方法創出ワークショップと同時開催とする。 <u>2. 外国人住民の生活実態調査（質的調査。対象者数とその特性によって量的調査を追加で実施、令和3年7月～12月）</u> ・市民団体の関係者から市内の永住者の家族（通訳経験を持つもの）を数名紹介してもらい、キーインフォーマントインタビューを行う。 ・キーインフォーマントインタビューの結果を踏まえ、フォトボイス¹またはフォーカスグループディスカッションを行う。対象はキーインフォーマントを起点に、雪だるま式サンプリングで集める。通訳はキーインフォーマントインタビューの結果を踏まえ、選定する。 ・データ分析、結果のとりまとめ（執筆）を行う <u>3. 課題解決方法創出ワークショップの実施（令和3年10-1月）</u> ・市民団体、当事者（生活実態調査の対象者に加え、広報等一般に周知）の参加による対話型ワークショップを開催する ・2の結果（粗分析結果）を踏まえ、参加者自らが解決策を検討し、自身の貢献できる場面を想定した、アクションプランを作成する。 ・ほかの活動の進捗を踏まえ、2回程度開催する。 ¹当事者にコミュニティの強みや問題の写真を撮影してもらい、それをもとに対話をし、課題解決を行う、エンパワーメント型の参加型研究手法
	手法	(具体的な指標、数値目標等) 【具体的な目標】 ・射水市内で在日外国人を支援している団体・個人の活動とその成果が整理、共有される。また、その場が構築される ・外国人住民の生活実態が把握され、課題が整理される ・関係団体・当事者・行政が参画して課題解決方法創出ワークショップが開催される。また、解決方法が創出される

	【指標・数値目標】 ・市民団体合同協議会（仮称）が設置され、協議会の結果が報告書として取りまとめられる（市民団体のリスト、活動内容・場所、対象、これまでの成果などが記載されている報告書が作成されること） ・射水市の外国人住民の課題が整理されたレポートが完成し、公表される ・課題解決方法創出ワークショップにおいて具体的な解決策が創出され、アクションプランが策定される（具体的な方法、担当者、スケジュールなどが記載されたアクションプラン作成されること）
協働事業として取り組むことの必要性	（団体や行政の特性から説明してください。） 外国人住民の日常生活上の課題には、健康・医療に関するものが含まれている可能性が高い。また、外国人住民の生活や市民団体の活動に関する現状把握には研究手法を用いることを想定している。課題解決方法の構築に向けた専門的立場からの助言や、実態把握の調査にあたり、県大の持つ専門性が不可欠である。 本事業では、当事者、市民団体を含めた射水市民が協働で課題解決を行う仕組みづくりを目指す。社会保障上、行政の介入が不可欠な課題もあると想定される。本来行政がかかわるべき課題と住民主体で解決する課題を整理し、必要時行政が介入できるよう、射水市には事業の立ち上げから関与することが求められる。
役割分担	（提案団体が果たす役割） ・市民団体合同協議会（仮称）の企画・運営・評価（課題整理等） ・外国人住民の生活実態調査（データ収集・分析・公表） ・課題解決方法創出ワークショップの企画・運営・評価（実態調査結果を踏まえて） ・上記すべての報告書の作成の主体（前ページ目標の指標参照） （事業実施に伴う市の役割） ・市民団体合同協議会（仮称）および課題解決方法創出ワークショップの企画・運営補助、会場貸出 ・生活実態調査の公表方法への助言（結果公表をワークショップ形式にする場合は、その場への参加など）
事業スケジュール （別紙添付でも可）	（準備期間、本実施期間、事業の評価等のスケジュール） 準備期間：令和3年4-5月 射水市担当課職員と、県大が本事業計画の内容を精査し、方向性を確認する。必要に応じて事業内容やスケジュールの修正を行う 本実施期間：令和3年6-令和4年2月 本様式2ページの手法を参照 事業評価：令和4年3月 本様式3ページの評価指標に基づき評価を行う 評価結果をもとに、来年度以降の計画を検討する（次ページ事業展開を参照）

事業効果	(事業に取り組むことで、どのような効果が期待できるか。) 【期待できる効果】 ・中期的インパクト:外国人住民に関連した事件・事故等の要因を取り除き、事件・事故等を予防することができる ・長期的インパクト:市の課題解決に貢献する若く有能な外国人の定住者が増加する 【成果指標・数値の目標】 ・外国人住民に関連したトラブル(インシデント)・事故・事件数/割合→減少(ベースライン値を本事業中に明らかにし、同値をもとに来年度以降数値目標を設定する) ・外国人住民の数/割合(国籍・在留資格別)→増加(具体的な目標値は市が目指す姿による)
事業展開	(協働事業終了後の事業展開) 今後も県内の外国人住民は増加することが見込まれ、行政の業務に精通した通訳等、外国人のコミュニケーションに関する支援ニーズは増大していくと考えられる。これまでは、永住者の家族等が、通訳等の役割をボランティアで担ってきたが、今後はボランティアではなく起業等につなげることで、永住者の家族の雇用の創出、それによる生活基盤の安定も目指していくことも必要となる。 通訳等事業を立ち上げる際には、県内における市場規模や、求められる通訳の能力の特定、能力向上のための方法(講習等)の方向性なども検討する必要がある。本事業の今後の展開を検討するうえでも、これらについて本事業中から情報収集を行い、関係者とともに検討していきたい。

射水市公募提案型市民協働事業 事業計画書

団体名 射水まちづくり大学同窓会 他1団体

事業の名称	もっと知って、もっと繋がる多文化交流事業 ～外国人と地域住民の交流型イベント『LINK PARK』～	
事業の目的	（解決すべき地域課題と市民ニーズ） 射水市は人口の約3%（約2700人）が外国人という県内でも高い構成率であり、同時に地域では文化や慣習・言語の違い、コミュニケーション不足からの外国人住民との壁という課題を多く抱えている。長く住んでいてもなかなか地域になじめない外国人も少なくない。お互いが住みやすい地域を作るには、地域住民と外国人が交流し、互いに理解し協力できる場の必要性が長く叫ばれている。同じ射水市に生活する住民として相互理解を図るキッカケを作り、大勢の市民が連携するまちづくりの強化を図る。	
事業内容 (複数の事業がある場合は別紙添付でも可)	対象	（誰を） 市内在住の外国人、射水市民、国際交流に興味のある人
	手法	（いつ、何を、どのように等） ・外国人住民と地域住民のネットワーク作りを目的とした文化交流ワークショップ（各国の料理、工芸、ダンス・音楽etc）、ヒアリングの開催、ヒアリングや参加者の意見を基に求められる内容のものが開催できるよう随時検討する。 ・ワークショップ成果発表の場も兼ねたイベントの開催（公園内に様々な音楽やダンスを楽しめる場所をつくる。ゴスペル、フラメンコ、ベリーダンス、太極拳、ヨガ、着物（浴衣）体験など、キッチンカーやマルシェのスペースも設け、オープンスペースでの自由な参加を促すスタイルとする） 4月～ 交流実行委員会立ち上げ（多国籍、市内の学生にも参加打診）ヒアリング 5月～ ワークショップ、教室の開催 10月 多文化交流イベント開催（歌の森運動公園）
	目標	（具体的な指標、数値目標等） 【具体的な目標】 市内在住の外国人と地域の人たちが相互理解を交流をきっかけに深め、交流できる継続的な場をつくる。市内各種団体と協力し、多文化共生も軸とした住みよい「まちづくり」を考え、住んで良かったと思える射水市をつくる。 【指標・数値目標】 ・事業参加者数、協力者数、参加賛同協力団体数、事業認知数、ヒアリング数、イベント満足度 ・外国人参加協力者数20%、市民事業認知率80%以上を目指す

協働事業として 取り組むことの 必要性	(団体や行政の特性から説明してください。) 外国人市民との共生は地域だけや行政だけで解決する問題ではなく、行政と市内各種団体や市民が一丸となって関わっていくことが大切である。また、協働で取り組むことにより行政側では市民への周知や、参加者へ安心感を与える面で強みをもち、射水まちづくり大学同窓会側では会員がもつ様々なネットワークを駆使した人材確保など、両者の利点を活かしスムーズなイベント運営を進めることができる。
役割分担	(提案団体が果たす役割) 射水まちづくり大学同窓会…企画、運営、コーディネート 国際交流協会…運営の支援
	(事業実施に伴う市の役割 ※フリー型提案の場合は地域振興会の役割も記載) ・事業実施における指導、助言、各種サポート (未来創造課) ・広報いみず、ケーブルテレビ、ホームページ、SNS 等での広報・啓発
事業スケジュール (別紙添付でも可)	(準備期間、本実施期間、事業の評価等のスケジュール) 4月 実行委員会立ち上げ、講師手配、ヒアリング 5月 周知、ワークショップ教室募集開始 6月-10月 ワークショップ (実行委員会)、各種教室 (月数回) 8月 交流イベント開催告知 10月 交流イベントの開催 10月-3月 ワークショップ (実行委員会)、各種教室
事業効果	(事業に取り組むことで、どのような効果が期待できるか。) 【期待できる効果】 ・多文化共生による地域への愛着 ・地域住民同士の連携強化 (災害時等の協力体制) ・定住人口、交流人口の増加 ・地域活性化、まちづくりの推進
事業展開	(協働事業終了後の事業展開) ・市民交流ネットワークの構築 ・国際交流イベント (いみず国際交流フェスティバル) の恒例化 ・ワークショップや教室の継続

射水市公募提案型市民協働事業 事業計画書

団体名 小杉まちづくり協議会 他1団体

事業の名称	多世代が伝える小杉の偉人	
事業の目的	（解決すべき地域課題と市民ニーズ） 小杉まちづくり協議会ではそのまちづくりの基本を「歴史と文化のまちづくり」としており、ふるさと小杉の地域の歴史に愛着を持つための活動に積極的に取り組んでいる。しかし、地域の偉人を知る者の高齢化が進んでおり、歴史文化の伝承者の育成に取り組んでいく必要がある。 地区の若手世代に着実に地区の歴史・文化を受け継いでいくために、若者自身が小杉の偉人について学び伝える側となる事業も盛り込み、幅広い世代がふるさとの歴史について理解を深める契機としたい。 また、三ヶ、戸破地区の歴史を掘り起こし、次世代に“伝える”だけでなく、“主体的にまちづくりへ参画する”きっかけを提供することで、地域愛を高め、一体感のあるコミュニティづくり、活性化、そして人口減対策も進めたい。	
事業内容 (複数の事業がある場合は別紙添付でも可)	対象	（誰を） 地域一般住民（とりわけ小杉地区を中心に） 小学生（高学年）、中学生、高校生、大学生等
	手法	（いつ、何を、どのように等） 一昨年から2か年にわたって取り組んだ藤井右門についての継承事業の成果として10代から30代の若手の参画が挙げられる。若い世代が事業に参画することにより、まちの活性化や今後の地域づくりの担い手としても参画する機運が生まれつつある。この動きを着実なものとするために、幅広い世代の地域住民が協働して、地域の偉人の功績を将来に継承する事業に取り組む。 大正、昭和の小杉を代表する偉人として、片口安太郎と青井忠治をとらえ、その人生、業績等を小杉歴史愛好会が中心となって調査研究し、その調査研究に基づき、簡易な冊子を作成し学校現場等で読み聞かせの会に取り組んでいく。そして、令和3年度においては片口安太郎をメインターゲットとし、令和4年2月をめどとして、フォーラムと市民演劇を一二部制で開催し、片口安太郎に対する理解を高め、次世代に継承していく取組を進めていく。市民演劇については小杉高校と連携し、市民参加型の舞台として創り上げていき、若い世代にも興味を持ってもらえる内容とする。 また、この取組については、地域振興会単位での事業においても事業効果が期待されることから、各地域の地域文化祭等にも積極的に連携して愛着、そして継承の幅を広げることを目的として合わせ取り組んでいく。
	目標	（具体的な指標、数値目標等） 【具体的な目標】 フォーラム及び市民演劇の開催については、より多くの団体等と連携し、ともに創る意識の醸成に努める。

		【指標・数値目標】 この活動の調査研究を分掌する小杉歴史愛好の会員を現在の9名から20名程度に拡充する。(とりわけ戸破地区) フォーラム及び市民演劇の実施に当たっては、効果を最大化するため、コロナ下での最大集客を図る。400名を目標とする。															
協働事業として取り組むことの必要性		(団体や行政の特性から説明してください。) この事業の目的は、地域住民に自らの地域に誇りと愛着を持ってもらうことです。素晴らしい過去資源をしっかりと掘り起こし、現代にそして将来に引き継いでいきたいと考えています。遅効性であっても、しっかりと人口減歯止め対策になり得るものと考えています。															
役割分担		(提案団体が果たす役割) (小杉まちづくり協議会) 三ヶ・戸破地区住民が中心となった組織である。地区の歴史・文化を深掘りし、配布冊子など資料等を作成。フォーラム、演劇の企画・運営。地区住民等への普及。 (小杉高校) 歴史文化伝承の新たな担い手となる生徒(演劇部、美術部)の参画。高校が所蔵する資料の提供。 (事業実施に伴う市の役割) 当然広報でのお手伝いはぜひとも期待していますが、博物館、図書館等のノウハウ提供などのご指導をお願いします。															
事業スケジュール (別紙添付でも可)		(準備期間、本実施期間、事業の評価等のスケジュール) <table border="0"> <tr> <td>9月まで</td><td>毎月の勉強会</td><td>片口安太郎の人生を共に学ぶ</td></tr> <tr> <td>10月から11月</td><td>フォーラム</td><td>演劇プラン作成</td></tr> <tr> <td>12月</td><td>事業内容決定、広報開始</td><td></td></tr> <tr> <td>R4年2月</td><td colspan="2">「アワーヒーロー YASUTARO」をフォーラム&芝居で上演</td></tr> <tr> <td>同上 3月</td><td colspan="2">事業とりまとめ及び読本作成</td></tr> </table>	9月まで	毎月の勉強会	片口安太郎の人生を共に学ぶ	10月から11月	フォーラム	演劇プラン作成	12月	事業内容決定、広報開始		R4年2月	「アワーヒーロー YASUTARO」をフォーラム&芝居で上演		同上 3月	事業とりまとめ及び読本作成	
9月まで	毎月の勉強会	片口安太郎の人生を共に学ぶ															
10月から11月	フォーラム	演劇プラン作成															
12月	事業内容決定、広報開始																
R4年2月	「アワーヒーロー YASUTARO」をフォーラム&芝居で上演																
同上 3月	事業とりまとめ及び読本作成																
事業効果		(事業に取り組むことで、どのような効果が期待できるか。) 【期待できる効果】 地域に対する誇り・愛着を地域とともに持つことが期待できる。とりわけ若い世代に食い込むことによって、消滅しかけている地区の歴史・文化資源をしっかりと継承できる。また、長期的には人口減対策にもつなげたいと考えている。(短期では難しいが継続することで効果を上げていきたい) この事業を継続開催することで、県内の歴史文化団体とのネットワーク構築 【成果指標・数値の目標】 読本については、小杉地区小中学校用の読み聞かせを進めるよう準備。(200部作成予定)地域の児童生徒がふるさとの偉人を知る機会を提供する。 数値目標は設定できないが、ふるさとの偉人やその功績の伝承者となる地域住民を増やす。 同じく数値目標は設定できないが、地域振興会の事業をはじめとしたまちづくりの取組に参画する若手世代を増やす。															

事業展開	(協働事業終了後の事業展開) 今回は2か年で片口安太郎、青井忠治という大正昭和期の小杉地区の大切な人の物語の現代次世代に語り継ぐことを計画しており、令和4年度の青井忠治の特集に向けて、市民の期待を高めていくよう今年度片口安太郎の取組を充実したものとするよう全力を傾注する。また、近い将来の独立した事業展開ができるよう事業協賛の獲得についても目的意識を持って取り組みたい。
------	---

射水市市民生活部 地域振興・文化課

〒939-0294 射水市新開発4 1 0番地 1

TEL : 0 7 6 6 - 5 1 - 6 6 2 2

FAX : 0 7 6 6 - 5 1 - 6 6 5 4

E-mail : chiikibunka@city.imizu.lg.jp

